

バイオなどの新技術と学際的研究で循環的未来と地域貢献を

No.  
1



# Ishikawa Prefectural University NEWS

石川県立大学広報

2005.10



## 第1回 入学式

4月8日130名の新入生が入学しました。

### 本号の内容

入学式の挨拶	
丸山利輔学長 .....	2
知事挨拶 .....	3
開学記念式典挨拶 丸山利輔学長 ...	3
学内提案型研究の創成 .....	4
平成17年度入学試験の状況 .....	4
大学の動き .....	5
オープンキャンパス	
食談会	
中部公立短大交歓競技会	



発行 石川県立大学広報委員会  
**みなさんのご意見をお待ちしています**  
 インターネットホームページ <http://www.pref.ishikawa.jp/ishikawa-pu/> 電子メール [kyoumu@ishikawa-pu.ac.jp](mailto:kyoumu@ishikawa-pu.ac.jp)

〒921-8836 石川県石川郡野々市町末松1丁目308番地  
 電話 / 076-227-7220 FAX / 076-227-7410

# 入学式の挨拶（石川県立大学第1回入学式）

平成17年4月8日

石川県立大学学長 丸山利輔

皆さん、御入学おめでとうございます。本日、ここに谷本石川県知事、米田石川県議会議長を始め、来賓各位のご臨席を得て、石川県立大学第一回入学式を行い、130名の新生をお迎え出来ますことは、本学の大きな喜びであります。

難関を突破されての皆さんの御入学、心からお祝い申し上げます。本学は本年4月に開学したばかりの新しい大学であり、大きな希望を持って入学されたことと存じます。私達教職員もまた新生の皆さんに大きな期待をもって歓迎いたします。

本日は、石川県立大学の「船出」の日であります。ここにお集まりの教職員と共に、皆さんは「石川県立大学丸」に乗船して頂きました。乗船して頂きました以上、皆さんと私どもとは運命共同体であります。皆さんの頑張りがそのまま、大学の命運を左右することになりますし、反対に大学の評価がそのまま皆さんの評価にもつながります。本学は、少子化、財政難の厳しい環境のもとで、石川県当局、県民の皆様の深いご理解の中で生まれた大学であります。この産みの苦しみを、関係者全員、いつまでも忘れることなく、全員で努力して行きたいと考えております。



「はじめ良ければおわり良し」という諺があります。本学は関係者全員のそれぞれのご努力により、優秀な皆様の入学、立派な校舎と研究教育設備、優秀な教員の確保と言った点で、順調な船出が出来たと考えております。しかし、問題はこれからです。教職員と本日入学された皆さんが互いに協力し、「良い大学」に育てて行かねばなりません。「良い大学と言うは易し、実現は難し」であります。なみなみならぬ努力の積み重ねによって、初めて実現可能なことであります。

本年度入学されました皆さんは石川県立大学の第1期生です。第1期生は大学の風格をきめるといわれ、大変重要な役割を担っているのが歴史の教えるところです。皆さんには、誇りを高く持って頂き、本学の教職員と共に力を合わせ、格調の高い風格のある大学育成の一翼を



担って頂きたいと思えます。皆さんにつづいて入学される学生諸君は、この学風の中で立派に成長され、見識のある卒業生となって、社会の期待に応えることが出来るでしょう。

21世紀には、前世紀の反省に立って、循環型社会の構築が強く求められています。循環型社会の構築の基本は、化石エネルギーの大量消費から脱却し、植物・動物・微生物などの生物資源の活用によって、新しい価値観に基づく社会を構築することではないでしょうか。生物資源の活用と環境保全を両立させながら、持続的に豊かな人間生活の送れる社会の実現を目指すのが本学の基本的な考え方です。いわばバイオと環境に特化した大学といえます。

本学には生産科学科、環境科学科、食品科学科の3学科と、これら3学科の基礎となる生物資源工学研究所がおかれています。皆さんは、それぞれの学科で専門的な教育を受けられますが、卒業論文の作成の際には生物資源工学研究所でも指導を受けることが出来ます。皆さんが、4年生に進まれた後には、学年進行により、大学院が出来る予定です。したがって、学部卒業後、引き続いて大学院に進学できると思えます。

大学では、専門の学問は勿論のこと、広く教養の勉学にもいそしみ、広い視野でものが見え、自分でものが考えられる勉学をして頂きたいと思えます。また、多くの友達を作り、学生相互の交流の中から、自然に自分を磨いて頂き、相手のことに思いをはせる、人間性豊かな人に、また、物事に対して積極的に取り組む人になって頂きたいと思えます。このためには学力と共に、気力・体力が大切です。

どうか皆さん、青春のすべてをかけて、大学生活をエンジョイし、悔いのない学生生活を送って頂きたいと祈念し、入学に際してのお祝いの言葉と致します。

本日はご入学本当におめでとうございます。

## 知事挨拶

平成17年4月8日  
石川県知事 谷本正憲

本日、石川県立大学の第1回入学式にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

130名の入学生の皆さん、本日の栄えある日を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。皆さんの胸には、さぞかし喜びと希望が満ちあふれていることと思います。

また、ご列席のご家族の皆さん方には、今日の佳き日を迎えられ心からお祝いを申し上げます。

石川県立大学は、お陰様で、本日皆さんを迎え、いよいよ新たな第1歩を踏み出すことができました。平成12年4月に大学設立準備室を設置し、開学に向けた諸準備を進め、本日の日を迎えることが出来ました。これもひとえにご臨席のご来賓の方々をはじめ、関係各位のご支援の賜と、深く感謝申し上げます。

「生物資源環境学部」を持つ本大学は、実験・実習に主眼を置いた少人数の実践的教育により、生産から流通までの技術開発、バイオテクノロジーを活用した生物資源の機能開発などを行うとともに、企業家精神に富んだ人材の養成を目指します。そして、地域の企業と連携した共同研究などを通じて、地域に貢献できる大学でありたいと思っております。

そのため、施設のハード面の充実はもとより、全国か

ら優秀な教授陣を招聘させていただきました。また、大学内には、県内の大学と連携しバイオ系を中心とした大学発ベンチャーを創出する国のインキュベーション施設も来年には開所いたします。

新井白石が「加賀は天下の書府」と評したように、古くから学問の盛んな土地柄であります。そして、入学生の皆さんは、これから4年間、白山連峰を眺望する豊かな自然環境にも恵まれたこのキャンパスで学生生活を送られるわけであります。皆さんが、石川県立大学の第1期生としての誇りを持って、この大学で多くのことを学び、そして、多くの友人をつくり、豊かな創造力と知識、行動力を備えた有為な人材に成長することを期待しています。

最後になりましたが、本日ご列席の方々の今後のますますのご健勝とご活躍をお祈りいたしますとともに、石川県立大学へのより一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。私のご挨拶といたします。



## 開学記念式典の挨拶

平成17年5月29日  
石川県立大学長 丸山利輔

本日ここに石川県知事、米田県議会議長、国会議員各位、県会議員各位をはじめ多くの来賓各位の御臨席を得て、待ちに待った開学記念式典を挙行致しますことは、本学関係者全員、誠に喜ばしく、かつ慶賀に耐えないところでございます。

開学に当たりまして私は次の4点について私見を申し述べたいと考えます。

### 1. 良い大学の設立を

本学は、少子化・財政難の中にあって、県当局と県民各位の深い御理解によって、誕生した、いわば難産の大学といえます。県当局の御尽力によって、立派な校舎、最新式の研究・教育施設、優秀な全国レベルの教員の確保など、研究教育環境を整備して頂きました。このような関係各位の御尽力、いわば産みの苦しみを記憶にとどめ、初心を忘れないように、大学の教職員一同努力してまいりたいと存じます。「良い大学の設立」ということは、いわば当然のことではありますが、実現は容易なことではありません。このため、「教員が研究、教育、地域貢献、大学の管理運営に従事することは全ての教員の権利でありかつ義務である」という大学憲章を定めております。

### 2. 学生を大切に

良い大学を作るためには良い学生を確保することが基

本であります。本年度は幸いにして、推薦2.8倍、前期試験6.6倍、後期試験8.6倍の志願者を確保することが出来ました。この難関を突破して130名の新しい優秀な学生を確保することが出来ました。これもひとえに、高校の関係各位、県当局の御尽力の賜物と感謝しております。このように、まずは順調な船出をすることが出来ましたが、問題は次年度以降と心を引き締めております。このためには、これからの研究教育を大切に、学生に魅力ある教育を提供することが大切と考えています。教員一同力を合わせ情熱を持って、教育に当たりたいと考えます。

### 3. 研究を活性化し、学を楽しむ

良い大学を作るためには研究の活性化もきわめて大切であります。しかし、研究の活性化は外圧によってはなかなか実現しがたいものです。特に大学院においては研究と教育の一体化がさらに大切となります。今から大学院の準備をしておかなければなりません。このために教員にグループ制を採用し、教育研究の単位とすることとしております。これによって、教員相互の壁を低くし、情報交換と協力を容易にし、適材適所の考えのもとに、大学全体としての力を最大限に発揮する環境を整えたいと考えます。学内には大学憲章に沿った評価機関を設け、教員各位の業績について公正な評価を行い、大学の管理運営に反映させたいと考えております。

#### 4. 地域貢献にも力を注ぐ

県立大学の特色として地域貢献に対する期待が大きいと受止めております。このため、地域貢献は教員の義務と考える向きもありますが、私はそのようには考えておりません。研究と教育と地域貢献は大学の3本の柱だと考えております。この3本の柱は互いに刺激しあい支えあって、真に社会に貢献できる大学が出来ると考えております。たとえば、地域貢献によって、研究課題の発掘、生きた教育材料の収集、研究成果の社会還元などを通じて、活力ある大学が生まれ、螺旋状に大学の価値を高めて行くものと考えます。地域貢献は、大学にとっては社

会に開かれた窓であり、医学部における大学病院のような役目を果たすと考えます。本学にも、本年4月から経済産業省の支援によるインキュベーション施設の建設が始まり、地域貢献活動が具体化します。

本学は、大学としてはきわめて小規模なものでありますが、小規模大学の特徴を生かした、専門を超えて情報交換を密にし、お互いの壁を低くし、互いに協力して良い大学をつくって行きたいと考えます。

以上、現在構想し実行しつつあります、大学の方向をお話し、私の挨拶に代えさせて頂きたいと存じます。

### 学内提案型プロジェクト研究の創成

平成17年度の県予算として教員特別研究費が計上され、その主要部分が本学の研究・教育・地域貢献を進展させる目的で、5つの研究区分の提案型のプロジェクト研究費に配分されることとなりました。平成17年8月に採択された研究プロジェクトは以下のリストの通りです。

#### プロジェクト研究の採択状況について

区分	代表者職氏名	学科等名	プロジェクト名
一般研究	教授 鈴木 正一	生産科学科	植物の形態形成を支配する遺伝的制御機構に関する基礎的研究
	教授 早瀬 吉雄	環境科学科	浮島庭園方式等による池の水質改善技術の開発
	教授 上田 哲行	環境科学科	金沢市とその近郊の農業用水の生物多様性を高めるための基礎的研究
	教授 宮脇 長人	食品科学科	酵素触媒の多機能性の解明とその有効利用
	教授 島田 多喜子	生物資源工学研究所	サツマイモの塊根形成に関する遺伝子のクローニングと遺伝子組換えによるそれらの遺伝子の解析および新品種育成
全学	教授 辻井 博	生産科学科	能登半島の農林漁業振興のための学術的・応用的研究
教育改善	講師 一恩 英二	環境科学科	グループ学習の導入調査
	助手 永畠 秀樹	附属農場	石川県立大学における未来開拓につながる実習教育手法の構築
地域貢献	教授 古賀 博則	生産科学科	珪酸施用によるイネいもち病防除とそのメカニズムの解明
	教授 熊谷 英彦	生物資源工学研究所	チラミン酸化酵素の構造と機能解析
若手研究	助教授 中川 博視	生産科学科	水稻の開花時刻制御遺伝子の探索
	助教授 海老原 充	食品科学科	味覚レセプターT1R1のロイシン繰り返し構造と嗜好性に関する分子生物学的研究

#### 一般選抜（前期日程）

区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率
生産科学科	19	135 (53)	113 (44)	23 (8)	4.9
環境科学科	19	132 (40)	113 (34)	22 (6)	5.1
食品科学科	19	183 (122)	155 (102)	23 (13)	6.7
計	57	450 (215)	381 (180)	68 (27)	5.6

#### 一般選抜（後期日程）

区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率
生産科学科	13	200 (77)	44 (12)	19 (6)	2.3
環境科学科	13	187 (63)	31 (12)	21 (8)	1.5
食品科学科	13	176 (125)	45 (34)	25 (21)	1.8
計	39	563 (265)	120 (58)	65 (35)	1.8

注 後期の受験者数は、第1段階選抜者の数。  
( )内は、女子で内数。

#### 推薦

区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	
A	生産科学科	6	20 (11)	20 (11)	6 (4)	3.3
	環境科学科	6	21 (9)	21 (9)	6 (4)	3.5
	食品科学科	6	21 (13)	21 (13)	6 (3)	3.5
	計	18	62 (33)	62 (33)	18 (11)	3.4
B	生産科学科	2	2	2	2	1.0
	環境科学科	2	2	2	2	1.0
	食品科学科	2	2	2	2	1.0
	計	6	6	6	6	1.0

#### 合格者最高点・最低点・平均点

区分	学科	満点	最高点	最低点	平均点	
前期日程	生産科学科	450	375.0	327.0	344.0	
	環境科学科		393.5	320.0	341.2	
	食品科学科		370.5	333.0	345.1	
後期日程	第1段階選抜	300	270.0	205.0	221.9	
	第2段階選抜	500	生産科学科	383.7	344.9	358.3
			環境科学科	371.1	327.1	351.2
食品科学科			402.9	342.0	359.8	

## オープンキャンパス

石川県立大学オープンキャンパスが本年8月19日に行われ、県内152名、県外他51名合計203名(内女子140名)の参加があった。初めに参加者全員に対し学長挨拶があり、学生部長が入試等に関して概要説明を行った。本学を構成する生産科学科、環境科学科、食品科学科、教養教育センター、生物資源工学研究所の長が各部門の教育研究の内容を説明した。その後本学の高月 紘教授の「現在の環境問題と私たちのライフスタイル」と題する記念講演が行われた。

昼休み時には昼食の試食を参加者一同が県立大学食堂で楽しんだ。昼食の後、参加者は大学施設の見学と個別相談コーナーでの相談にも参加した。

午後は県立大学教員による4つのミニ講義と4つのミニ実験が実験室や講義室で実施され、参加者は大学の講義と実験のエッセンスを楽しんだ。オープンキャンパス諸行事の写真を掲載します。



学長挨拶



ミニ実験



ミニ講義BSE(狂牛病)



大学食堂での試食会

### 大学の動き

4月 8日	入学式
5月17日	食談会
5月29日	開学記念式典
8月19日	オープンキャンパス
8月30 - 31日	中部公立短大交歓競技会

#### <<編集後記>>

石川県立大学が2000年4月1日に開学し、ここに第1号の本学広報であるIPU NEWSを発行いたします。この広報は、石川県立大学の主な行事とそこの訓辞や研究・教育に関する重要な情報を、県民・国民や関連諸機関に報せ、またこの情報に対するフィード・バックを得て本学の研究・教育と地域貢献という主目的をよりよく達成するために発行されます。第1号を皮切りに、本広報がその所期の目的をよりよく果せるよう、広報委員会委員一同努力いたす所存です。

石川県立大学広報委員会

# 食料と環境の未来を拓く



## No. 25

### 2005.10

## 食談会



学生と事務局長・学長

本年5月17日夕刻県立大のプラザで、学生と教員・事務職員の懇親会である食談会が開催された。学生が企画し、企画委員の挨拶の後、学長挨拶などがあり、石川県立大学と石川県農業短期大学の学生、教員、職員がパ・ベキューなどで楽しく懇親を図った。パ・ベキューの後、全員でゲームなどをして楽しんだ。以下そのスナップ写真を掲載します。



学長挨拶



パーベキュー・パーティー



## 中部公立短期大学交歓競技会岐阜大会

恒例の短期大学交歓競技大会が岐阜メモリアル・センターで本年8月30日から31日にかけて開催された。岐阜市立女子短期大学の主催で、バレーボール、卓球、テニスなど6種の競技に石川県農業短期大学を始め中部地方

にある合計4つの短期大学の学生が参加した。石川県農業短期大学からは26名の学生、石川県立大学の一回生も26名が参加し楽しく一緒にプレイした。学長と教員5名、事務局長と事務職員6名も参加した。



開会式



卓球競技



テニス競技



長良川鵜飼いと花火による交歓